

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝

「個別の支援計画」の活用例



- ・「個別の支援計画」は、特別な支援を必要とする子どもの情報を、学校だけでなく、保護者、医療、保健、福祉、労働等の関係者が共有し、連携した支援を行うために作成される。昨年度、ある中学校から高等学校に進学した生徒の「個別の支援計画」を紹介する。

「個別の支援計画」

◎◎中学校

氏名	□□ □□	性別		生年月日	平成 年 月 日
保護者氏名	□□ □□	住所・電話番号			
担任名	1年 △△ △△	2年 ◇◇ ◇◇	3年 ○○ ○○		
教育歴	平成 年 月 ~平成 年 月	●●保育園 入園・卒園			
	平成 年 月 ~平成 年 月	■●小学校 入学・卒業			
	平成 年 月 ~平成 年 月	■●中学校 入学・卒業			
その他	・検査結果 WISC-III 言語性IQ×× 動作性IQ×× 全検査IQ×× 視覚情報処理よりも聴覚的な情報処理が得意。活動のペースがややゆっくりであり、書くことに苦手さがある。聴覚過敏である。				
	希望・願い				
本人	・友達と仲良く活動したい。楽しく学校生活を送りたい。				
保護者	・ペースは遅いが、やればできるので見守ってほしい。 ・自分の気持ちを表現することが難しいので、不安な様子が見られたら声をかけてほしい。 ・新しい環境に慣れるまで時間がかかるので、孤立しないか心配である。同じ中学校出身の生徒と同じクラスにしてほしい。				
	中学校生活				
目標	・困ったときが起きたら、周囲の友達や教師、支援員に自分から伝える。				
支援策	・教師が目配り気配りできるように、座席の位置を前方にする。本人の特性を理解している友達を班や座席の近くにする。 ・困ったときにヘルプサインを出せるように支援員を配置する。担任は毎日本人に声を掛けて様子を観察するとともに、信頼関係づくりに努める。 ・判断が難しいときは、二者択一にするなどして選択する機会をつくる。				
評価	・支援員の仲立ちで、周囲の生徒とコミュニケーションをとれるようになった。 ・グループ活動では事前に役割を与えたことで、自分から友達と関わることができた。 ・実技の製作は時間がかかったが、放課後に個別指導を行い、完成させた。				
	関係機関との連携				
	支援機関(担当者)	支援内容		記録・引継ぎ	
	■●病院 ○○医師 専門家・支援チーム□□指導主事 ○○養護学校 ◇◇教育専門監	・特性に関する説明、指導 ・授業参観 ・ケース会議の助言 ・個別の指導計画の助言		・最終受診 □/□ ・必要に応じて高等学校特別支援隊と連携する	

- ・最終的に、保護者が署名、捺印した計画を高等学校に届けた。「個別の支援計画」は、スムーズな移行支援のためのツールであり、各中学校で積極的に作成してほしい。高等学校では、指導の参考資料や「個別の指導計画」作成に活用してほしい。

- ・様式については、「秋田県特別支援教育校内支援体制ガイドライン（第三訂版）」（秋田県特別支援教育課HPからダウンロード）を参考にしてください。併せて、天王みどり学園HP教育専門監の「トシタテ情報」に、今回の例を紹介していますので、ご覧ください。